

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 建築・インテリア系教育課程編成委員会		
開 催 日 時	平成 28 年 7 月 25 日 (月) 15 時 00 分～17 時 00 分		
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、9 階 904 教室		
参 加 者	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;">外部委員：7 名</td> <td>内部委員・学内関係者：6 名</td> </tr> </table> <p> <外部委員：7 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 大塚雄二 (公益社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所) 樋口修 (東京商工会議所中野支部/株式会社ヒグチ設計) 北川辰雄 (清水建設株式会社) 中山聡 (前田建設工業株式会社) 可児才介 (一般社団法人東京建築士会/可児アトリエ) 霜野隆 (日本インテリアプランナー協会会長 株式会社レスト マムハウス事業部部長) 宮脇伸歩 (株式会社 L I X I L) <内部委員：6 名> 高瀬恵吾 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長) 白井雅哲 (同 副校長兼企画部部長) 杉本安雄 (同 建築監督科科长) 野上和弘 (同 建築科科长、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科科长) 高山寿一郎 (同 インテリア科科长、書記) </p>	外部委員：7 名	内部委員・学内関係者：6 名
外部委員：7 名	内部委員・学内関係者：6 名		
会 議 録	<p> <第一部 系別分科会> 15:00～15:35 B1F テラホール 1. 学園関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 高瀬恵吾 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (平成 27 年度第 2 回会議) (合同会議) 議事録確認 平成 27 年度第 3 回「卒業研究・制作発表会」内容確認 4. 平成 27 年事業報告 ①職業実践専門課程「建築監督科」認定報告 ②リアルジョブプロジェクト、進捗報告 ・学習成果として「テラカフェ」オープン報告 ・正規科目化による学則変更報告 ③卒業生アンケートの実施報告 5. 平成 28 年度事業計画 ①リアルジョブプロジェクト本年度取組み概要 ②三つのポリシー策定に関する報告 </p> <p> <第二部 系別分科会> 15:45～17:00 1. 議長挨拶 (野上) 2. 校長挨拶 (高瀬) 3. 委員のご紹介 4. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (野上) </p> <p> 以下、前回の議事録を訂正させていただきました。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテリア科の課題内容に省エネに関しても課題を入れてはどうかという霜野委員の意見の中で「H22 年すべての建築に省エネが求められる」という文言の「H22 年」を「2020 年」に変更。 ・「専門学校と大学卒では企業での待遇が違うのか」という霜野委員の間に、「前田建設では違いはない。」という中山委員の回答に「実力主義である。」と追記、以下「高専卒の社員は・・・」を削除。 		

・「大成建設では大卒でないと総合職になれたかった。」という可児委員の回答。以下「出世はできない。」を削除。

・インテリア科の過去の卒業作品を見て、「インテリアは室内だけでなく外部空間についても考えてみてはどうか。」の樋口委員の意見を「外部空間について考えており感心した。」に変更。

5. 意見交換と回答

・今回は、建築科夜間(建築士専科)の実習授業についてご意見をいただきたい。(野上)
・鈴木より配布資料(設計実習授業について、年間設計製図自習授業カリキュラム表、設計課題例)と模型(1年次設計課題1(公園のレストハウス))をもとに、建築科夜間(建築士専科)のコアカリキュラムを説明させていただいた。

以下いただきましたご意見。

・夜間課程の卒業設計は、2年次の3、4期の設計課題がそれにあたるのか。(可児)
・2年次の3、4期設計課題5の公共施設を含む複合施設になる。(鈴木)

・1級建築士の合格率はどのくらいか。(可児)
・1級建築士は卒業後の受験になるので把握しきれていない。(鈴木)
・2級建築士の合格率はどれくらいか。(白井)
・把握できている範囲では40%位の合格率になっている。(鈴木)
・2級建築士の対策講座などは実施しているのか。(北川)
・非常勤の先生に週末対策講座を学校で実施していただいている。また、外部の講座を利用している卒業生もいる。(鈴木)

・夜間課程の学生数は少なくなっているのか。(樋口)
・以前は1クラス50名程度だったが、現在は30名程度と減っている。途中で退学する学生は少ない。(鈴木)
・どのような経歴の学生が入学しているか。(可児)
・建築業界に務めている方だけでなく、公務員、金融系、IT系、医療系で務められていた方達。(鈴木)

・異業種の方なども入学されているが、建築の魅力をうまく伝えられれば学生を集められるのではないか。(北川)

・昼間の学生に比べると学生の幅が広いが、昼間と同じように教える建築の内容も初めから教えるのか。(大塚)
・初めから教えている。実際に建築の実務に就かれている学生もいるので、設計授業の内容を飽きのこないようなものにしている。(鈴木)

・夜間の授業風景のイメージがなかなかわからない。(宮脇)
・一般の授業と変わらないが、年齢層が高いこともあってか学生の集中力が高い。(鈴木)
・L I X I Lのショールームなどは来られているか。(宮脇)
・学生のほとんどの方が昼間働かれているので見学は難しい。夜間課程でも授業時間外ではあるが、週末に建築見学会を行っている。(鈴木)

・学生さんは実務に関係している方が多い。勉強をする動機を明らかにすることによって入学者が増えるのではないか。(中山)

夜間課程の入学に関しては、社会の情勢によって変わってくることもある。また、学費の減免もある。WEBでの宣伝も行っているが、「建築士」、「学校」のキーワードで検索を行えるようにしているが、検索キーワード(SEO)の値段が高い(上がっている)。当校の夜間課

程は授業の開始時間を会社の就業時間に合わせ遅いこと（16時30分開始）がアドバンテージとなっている。（高瀬）

- ・カリキュラムを見ると2D、3Dの授業が多く、手描きの時間が少ないことが気になる。お客さんの前で手描きの図面を見せると効果があるが、手描きの勉強がインテリアプランナー、建築士の資格試験や転職の時に役に立つのではないかと。在学中に准インテリアプランナーなどの資格を取り、学習した内容を設計課題につなげられると良いのではないかと。（霜野）
- ・3Dのソフトも比較的操作简单なSketchUpに変えている。模型は手を動かして作業をしてくれる。（鈴木）

- ・会社でも今年4月にインテリア科を卒業した学生が働いているが手描きが出来ない。3Dなどパソコンの技術はあるが、頭の中で平面と立体が理解できていない。やはり、手描きのスキルも身につけた方が良いのではないかと。（霜野）

- ・就職で設計、施工の割合は？（可児）
- ・就職転職は全体の1/3の学生で設計3割、施工7割くらいになる。（鈴木）
- ・やはり手描きのスキルを身につけさせた方が良いのではないかと。（可児）

- ・夜間課程の就職先は中小の企業が多いのか。専門用語の勉強の仕方も、施工の用語なのか設備の用語なのか、勤めてからの教え方が変わってくる。（霜野）

- ・施工技術者試験はどうしているのか。（可児）
- ・施工技術者試験の試験方法が変わった。（野上）

- ・姉齒氏の問題以降、建築士は減ったのか？（樋口）
- ・建築士の合格が難しくなっている。（鈴木）

- ・施工系でもスケッチの力は必要、研修で一年間かけて指導している。（北川）

- ・インテリアプランナーの製図の講習に試験の為だけではなくパースの描き方を教わりにくる受講生もいる。（霜野）

- ・BIM、CADか手描きかではなくどのような製図教育をしていくか考えている。ある学校は1年次手描き、2年次CAD。しかしこれでは就職活動に支障が出る。（高瀬）

- ・建築士の製図試験がCADになる話はないのか？（樋口）
- ・5年前に手描きからCADの動きがあったがそのあとは進んでいないようである。（高瀬）

- ・阪神淡路大震災以降、構造のテクニックを教えることは就職に良い。しかし、基本的なことが分かっていないと、また、基本的なことを理解させないといけないのではないかと。（大塚）

6. 次回日程について（議長）

- ・平成28年11月29日（火） 15時00分～17時00分

今回は建築監督科のカリキュラムについてご意見をいただきたい。

7. 閉式の辞（議長）

以上